

平成28年度事業報告

社会福祉法人 嬉 泉

1. 事業概況

(1) 法人全体

平成28年度は、全27事業、職員数は、常勤357人、非常勤165人、総勢522人となった(平成29年3月31日現在)。そのため前年度に引き続き運営体制の合理化に向けた管理システムの拡充、職員の資質の向上を目指して研修体制の充実を図ってきた。特に、各事業所の援助実践を「受容的交流」の立場から検証し、その有効性に立脚した必要性を対外的に発信していくための第一歩として、年度末の職員全体研修の場において、拠点間の垣根を越えた実践報告の機会を持つことが出来た。

また本年度は、前年度に再構築した法人事業執行体制を検証し、若干の見直しを行った。具体的には、場長会麾下の法人業務遂行機能である3局を、実態に合わせて「研究啓発局」「本部事務局」の2局に再編した。2局は引き続きそれぞれプロジェクトや課題に応じた「係」と「委員会」を擁し、全事業所横断的に人選を行い組織して業務に当たった。これにより、各職員の活動が更に活性化した。

新規事業として、平成28年9月1日より世田谷区成城学園駅前に宇奈根なごやか園の分園(通称シロクマ)を開設した。これは、世田谷区からの要請に応じて整備したもので、当初は「送迎ステーション事業」と同時開設の予定であった。送迎ステーション事業は、世田谷区の保育所待機児解消施策の目玉として企図されたもので、交通の要衝である鉄道駅至近にハブステーションを設け、そこで引き継いだ児童を所属保育園まで送迎するという事業である。近くに空き保育所がない家庭と、地域柄定員割れしている保育所双方にとってメリットのある施策であるが、世田谷区側の事情で開設が半年間先延ばしとなり、今回は分園のみのプレオープンとなった。また同じく世田谷区鎌田4丁目に整備する認可保育所「鎌田のびやか園」の開設に向けて、その施設建築と準備作業を実施した。一方で、世田谷区発達障害相談・療育センター(げんき)及び各発達相談室の運営については、指定管理者の選定に漏れ、それらの運営から今年度末をもって離れることとなった。

(2) 各事業拠点

- 1) 「子どもの生活研究所」の療育部門は、めばえ学園、おおらか学園、こぐま学園、相談支援事業所、東京都発達障害者支援センターから構成された保育部門と併せた多機能型施設であり、保育部門と有機的に連携させた「クローバーシステム」を基盤に「場長」のもとで一体的に管理・運営にあたった。

めばえ学園は、利用者数が減少していたため、安全管理と療育の質を低下させないことを

前提として利用人数を増加させていくことに努めた。おおらか園はそれまで別に運営してきた分室それぞれを本園に統合し一体的な運営を行った。こぐま学園は、運営方針を変更したことに伴う新たなニーズへの対応として終了した保護者に対してアフターフォローとして保護者会を行った。相談支援事業所については、めばえ学園・おおらか学園の利用者だけでなく、赤塚福祉園等の他事業所の利用者の計画相談など積極的に実施した。また他法人事業の利用者についての計画相談等実施するなど利用者拡大に努めた。東京都発達障害者支援センターについては、相談支援とともに区市町村の発達障害者支援体制整備に向けた活動に力点を置き運営した。また東京都から法人へ委託された「発達障害者相談支援スキルアップ事業」の責任企画運営を行った。

- 2) 「子どもの生活研究所」保育部門は、すこやか園（ゾウ、クジラ・キリン）、宇奈根なごやか園（カモシカ、シロクマ）で構成し、法人の保育部門として共通の基盤のもと、保育の質の向上を目指した。また、すこやか園（分園を含む）、宇奈根なごやか園（分園を含む）、すこやか広場や児童発達センターめばえ学園は、各々交流を図り、子ども達に様々な経験を提供できるように工夫した。家庭支援においては、園と家庭との連携を密に行い「互いに手を取り合い育てていく」という姿勢を持ち取り組んだ。その他、地域に開かれた子育て家庭への支援や、近隣の老人施設や学校との関係を深める世代間交流の機会を持つ等、新制度においても地域の子育て支援を積極的に行った。人材確保においては、国や都、地方自治体による保育施策に応じ、法人との連携を図り、保育所における職員の処遇改善に努め、優良な保育士の人材確保に努めた。

新規事業として、平成28年9月に宇奈根なごやか園分園を開園するとともに、平成29年4月開園の鎌田のびやか園の開園準備を滞りなく行うことができた。

- 3) 「セタック」は、世田谷区発達障害相談・療育センターが中心となり、烏山・桜新町子育てステーション、及び成城・梅ヶ丘発達相談室が連携を取りながら、発達障害児への相談・療育・地域支援を推進していく世田谷区の事業である。年々利用者が拡大し、地域支援事業もその種類や量が増大してきている。今年度は、引き続き学校教育との連携に力を入れ、区と協働して教育委員会との連携をはかり、教員の研修会や事例検討会で小中学校に出向いて活動する機会を多く得た。

世田谷区との関係は、平成29年度の指定委託に向け、平成28年度の5月に公募、8月に指定事業者決定された。区の担当課からは、療育部門（烏山・桜新町発達相談室含む）と、相談・地域支援部門（梅ヶ丘・成城発達相談室含む）に分けて別の事業者へ委託予定という事前の話し合いがあり、本法人は相談・地域支援部門に応募したが、世田谷区や選定委員会の意向は相談と療育のどちらも同じ法人にて運営することが望ましいと考えたようで、直前に療育部門に応募を促す話が区からあったが、法人としては事業収支の面から応募せず、結果としてそれだけの要因ではないかもしれないが指定を受けることはできず、撤退することになり、29年度より運営委託を受ける事業所に引き継ぎを行った。

4) 「嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦」は、統括施設長のもとで各事業のきめ細かな管理運営体制を実施するために配置した場長補佐並びに各施設長の働きにより、拠点組織の活性化が図られ、職員間のコミュニケーションの促進が少しずつなされて来た。残念ながら相変わらず職員の離職率は法人内でも高かったが、内容をみると配属された新任職員の志向と配属先であるこの入所施設の現場とのミスマッチということが大きく、逆に3年以内に離職しなかった職員については職務に対する満足度が高いという調査結果もあり、課題と改善策が明確化された。次年度以降、職員の定着という課題に取り組んでいく。

「嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦 10 カ年戦略」の実施状況は、袖ヶ浦ひかりの学園は、ひかりの本体（そだて）改修、増築に向けて検討委員会を作り、基本的なプラン策定を行った。袖ヶ浦のびろ学園は、東京都と定員削減に向けた協議に入り、年度末に定員削減（10名）の許可をもらい、年度明けに定員削減の具体的な事務手続きを行う事となった。地域生活支援センターたのしみの放課後等デイサービスは、小学部を卒業した児童が引き高等部まで利用できるように定員を10名から20名に増員し、年度明けより事業を開始することとなった。

5) 「板橋区立赤塚福祉園」は、デイセンターきらら（生活介護事業）、ワークセンターはばたき（就労継続支援B型事業）、赤塚ホーム（緊急保護事業）からなっている。本年度は、指定管理者独自事業として、延長サービス実施に加え、土曜日開園を2回実施した。生活介護事業においては、区立福祉園平準化基準の範囲内ではあるが、在園時間の延長を行い、家庭支援の一助となった。就労継続支援B型事業においては、作業種が多岐にわたったことで、利用者の選択の幅が増え、利用者の強みを生かした作業展開ができた。緊急保護事業については、特に、介護者の高齢化に伴う急な入院、家庭内の問題等により、長期利用を要する利用が増加しており、短期入所事業の利用を含め、板橋区との調整を要するケースが増えている。板橋区との関係については、相談支援事業の円滑な実施に向けて、引き続き福祉事務所、相談支援事業所等との連携を進めた。地域との関係においては、新たな試みとして、篠ヶ谷戸町会に加え、地域のNPO法人等の協力を得て福祉園祭りを開催した。

6) 清瀬市子どもの発達支援・交流センターは、「地域と連携・交流しながら地域にくらす親子をささえる」を基本理念として、法人が長年にわたり培ってきた実績に基づく理念「受容的交流理論」や、現スーパービジョン体制の下に心身の発達に遅れやかたよりのある子ども、さらに社会生活上何らかの問題を持つ子どもの相談・訓練指導を通して成長・発達を援助し、地域での育ちを支えることを目的とし運営を行った。

また、対象となる本人や家族だけではなく、その方を取り巻く関係者への支援をする等、地域の支援力の向上に努めると共に、相談・療育・支援の場の提供だけではなく、地域療育の拠点となることを目指し、地域活動にも積極的に参加をしながら連携に努めた。

7) 「大田区立こども発達センターわかばの家」は、大田区からの委託事業である。心身の発達に遅れや偏りのある就学前の幼児とその保護者を対象に早期からの支援を行う機関として、「相談支援事業」「地域支援事業」（幼稚園・保育園への訪問・相談支援、こども発達支援講演会の開催等）「早期支援事業」を行った。併せて付帯する「相談支援事業所」では、18歳未満児を対象に「障害児相談支援事業」と「特定相談支援事業」を実施した。法人の支援理念である「受容的交流理論」に基づいた支援に努めるとともに、相談件数・利用者数の増加、また幼稚園・保育園からの援助要請の増加等に対して、ニーズと支援の目的を整理しながら、柔軟な対応の工夫に努めた。

また、区との連絡・連携を密にするとともに、要請に応え、区や大田区社会福祉協議会主催の事業や講座への講師派遣等に積極的に協力した。

委託関係については、5年目が経過し、29年度からの運営事業者選定のプロポーザルに応募し、選考の結果、引き続き運営事業者として選定された。

2. 法人本部

(1) 本部事業

1) 理事会関係

① 理事会並びに評議員会の開催状況

ア 理事会

回	開催日	出席数	議事内容
1	28.4.1	7/7	理事長の選出、常務理事の指名、理事長の職務代行者の氏名
2	28.4.25	6/7	平成28年度障害者総合福祉推進事業への応募、保育所(仮称)宇奈根なごやか園分園整備計画に係る設計業者の選定、保育所(仮称)宇奈根なごやか園分園整備計画に係る施工業者の選定、保育所(仮称)鎌田四丁目保育園整備計画
3	28.5.23	6/7	平成27年度事業報告、平成27年度決算報告、平成28年度資金収支補正予算案、児童発達支援センターヒツジ運営規程の一部改正、保育所(仮称)宇奈根なごやか園分園整備計画に係る施工業者の選定、保育所(仮称)鎌田四丁目保育園整備計画に係る設計業者の選定、保育所(仮称)鎌田四丁目保育園整備計画に係る入札参加条件及び指名業者選定基準
4	28.6.20	7/7	世田谷区発達障害相談・療育センター等運営委託(相談事業等)公募型プロポーザルへの応募、保育所(仮称)鎌田四丁目保育園整備計画に係る指名競争入札参加業者の選定、保育所(仮称)鎌田四丁目保育園整備計画に係る工事予定価格の決定、保育所(仮称)鎌田四丁目保育園整備計画に係る福祉医療機構からの資金借入、保育所(仮称)

			宇奈根なごやか園分園整備計画に係る世田谷区からの資金借入、指定障害者支援施設袖ヶ浦ひかりの学園運営規程の一部改正、障害者自立支援法に基づく袖ヶ浦ひかりの学園(短期入所)運営規程の一部改正
5	28.7.20	7/7	保育所(仮称)鎌田四丁目保育園整備計画に係る施工業者の選定、平成29年度大田区立こども発達センターわかばの家運営業務委託公募型プロポーザルへの応募
6	28.8.20	5/7	保育所(仮称)鎌田四丁目保育園整備計画に係る施工業者の選定
7	28.9.29	6/7	平成28年度資金収支補正予算案、社会福祉法人嬉泉定款の変更、基本財産の処分、社会福祉法人嬉泉諸規程の整備
8	28.12.15	6/7	平成28年度資金収支第3次補正予算案、社会福祉法人嬉泉諸規程の整備、保育所(仮称)鎌田四丁目保育園整備計画に係る工事契約、評議員選任・解任委員会委員の選任
9	29.1.20	5/7	評議員候補者の推薦、評議員選任・解任委員会の開催、保育所鎌田のびやか園運営規程の制定
10	29.3.23	5/7	社会福祉法人嬉泉定款の変更、社会福祉法人嬉泉諸規程の整備、平成28年度資金収支第4次補正予算案、平成29年度事業計画案、平成29年度資金収支当初予算案、借入金に関する担保物件、施設長人事

イ 評議員会

回	開催日	出席数	議事内容
1	28.5.23	15/16	平成27年度事業報告、平成27年度決算報告、平成28年度資金収支補正予算案、児童発達支援センターヒツジ運営規程の一部改正、保育所(仮称)宇奈根なごやか園分園整備計画に係る施工業者の選定、保育所(仮称)鎌田四丁目保育園整備計画に係る設計業者の選定、保育所(仮称)鎌田四丁目保育園整備計画に係る入札参加条件及び指名業者選定基準、平成28年度第1回理事会議決事項、平成28年度第2回理事会議決事項
2	28.9.29	14/16	平成28年度資金収支補正予算案、社会福祉法人嬉泉定款の変更、基本財産の処分、社会福祉法人嬉泉諸規程の整備、平成28年度第4回理事会議決事項、平成28年度第5回理事会議決事項、平成28年度第6回理事会議決事項
3	28.12.15	15/16	平成28年度資金収支第3次補正予算案、社会福祉法人嬉泉諸規程の整備、保育所(仮称)鎌田四丁目保育園整備計画に係る工事契約
4	29.3.23	12/16	社会福祉法人嬉泉定款の変更、社会福祉法人嬉泉諸規程の整備、平成28年度資金収支第4次補正予算案、平成29年度事業計画案、平成29年度

			資金収支当初予算案、借入金に関する担保物件、施設長人事、平成28年度第9回理事会議決事項
--	--	--	--

② 監事による監査

ア 監査実施日

- ・事業監査…平成28年5月13日(金)
- ・会計監査…平成28年5月17日(火)

イ 実施場所

- ・事業監査 袖ヶ浦のびろ学園
- ・会計監査 袖ヶ浦のびろ学園

ウ 監査内容

平成27年度における理事の業務執行状況及び法人の財産状況

エ 監査結果

事業実施報告、決算書、決算附属明細表ならびに財産目録は適正

③評議員選任・解任委員会

- ア 開催日 平成29年2月14日(水)
- イ 開催場所 法人本部(子どもの生活研究所)
- ウ 内容 評議員の選任について
- エ 委員

選出区分	氏名	職業等
監事	大森 行雄	大森行雄税理士事務所 税理士
事務局員	亀谷 一雄	本部事務局長
外部委員	矢島 卓郎	目白大学人間学部人間福祉学科 教授・学部長
外部委員	古屋 龍太	日本社会事業大学専門職大学院 福祉マネジメント研究科 研究科長

④ 法人の事務処理体制

ア 経理関係

	会計責任者	出納職員	契約担当者	現金保管責任者
職・氏名	常務理事 石井 啓	事務局長 亀谷一雄	理事長 須藤祐司	事務局長 亀谷一雄
発令月日	H26. 6. 20	H9. 4. 1		

イ 公印等管理

	代表者印管理	法人印管理
職・氏名	常務理事 石井 啓	理事 山崎順子

⑤ 資金関係

ア 寄付金

寄付者	目的	金額
一般寄付者他	運営費(本部)	18,012,730
一般寄付者他	運営費(施設)	1,042,336
合計		19,055,066

イ 地方公共団体補助金

東京都	サービス推進費他	220,729,622
世田谷区	委託料他	847,098,295
千葉県	サービス推進費割愛分他	14,323,120
千葉市	サービス推進費割愛分	1,339,000
袖ヶ浦市	相談支援事業委託料	3,600,000
板橋区	委託料	413,946,000
清瀬市	〃	76,886,000
大田区	〃	315,413,535
狛江市	運営費	501,245
渋谷区	運営費	36,392
厚生労働省	補助金	852,000
公益信託障害者愛の福祉基金	助成金	110,000
合計		1,894,835,209

⑥実施事業一覧

事業拠点	事業所	施設種別	施設長氏名	定員	職員数
子どもの生活研究所 【療育】	めばえ学園	障害児通所支援（児童発達支援センター）*2	樋口美津子	30	7
	おおらか学園	障害福祉サービス事業（生活介護）*2	樋口美津子	26	16
	子どもの生活研究所（相談部・こぐま学園）	児童の福祉増進につき相談に応じる事業		—	1
	東京都発達障害者支援センター（トスカ）	公益事業	山崎 順子	—	6
子どもの生活研究所 【保育】	すこやか園（ゾウ、クジラ、キリン）	認可保育所*2	稲垣 修	96	42
	宇奈根なごやか園（カモシカ、シロクマ）	認可保育所*2	坂田 朗	100	33
	すこやか広場	地域子育て支援拠点事業	稲垣 修	—	—
世田谷区発達障害相談・療育事業（セタック）	療育センター げんき	公益事業	沼倉 実	—	37
	烏山・成城相談室			—	3

	桜新町・梅丘相談室			—	5
嬉泉福祉交流センター 袖ヶ浦	袖ヶ浦のびろ学園	福祉型障害児 入所施設 *1	柳 淳一	5 0	3 4
	短期入所 袖ヶ浦 のびろ学園	障害福祉サー ビス事業（短 期入所）	柳 淳一		
	袖ヶ浦ひかりの学 園	障害者支援施 設 *1	石井 啓	5 3	5 1
	短期入所 袖ヶ浦 ひかりの学園	障害福祉サー ビス事業（短 期入所）	石井 啓		
	地域生活支援セン ター たのしみ	相 談 支 援 事 業、障害児通 所支援*2	柳 淳一	—	1 0
	日中一時支援 たのしみ	日中一時支援 事業	柳 淳一		
	グループホーム 春のひかり	障害福祉サー ビス事業（共 同生活援助、 共 同 生 活 介 護） *2	石井 啓	4	1
	袖ヶ浦市福祉作業 所うぐいす園	障害福祉サー ビス事業（生 活介護） *2	石井 啓	1 2	4
障害福祉サー ビス事業（就 労継続支援B 型） *2		3 0			
板橋区立赤塚福祉園	デイセンター きらら	障害福祉サー ビス事業（生 活介護） *2	小池 朗	6 0	3 2
	ワークセンター はばたき	障害福祉サー ビス事業（就 労継続支援B 型） *2	小池 朗	4 0	1 0
	赤塚ホーム	板橋区緊急保 護事業	小池 朗	8	1 0
清瀬市子どもの発達支援交流センター (とことこ)	公益事業	田中 慶子	—	9	
大田区立こども発達センターわかばの家	公益事業	大岩香代子	—	4 6	

注) 事業の種類 *1：第一種社会福祉事業

*2：第二種社会福祉事業

職員数：常勤職員

2) 施設整備

①子どもの生活研究所[保育]

- ・保育所宇奈根なごやか園分園施設整備

総費用 75,060 千円

(補助金 58,650 千円 借入金 16,000 千円 自己負担 410 千円)

- ・保育所鎌田のびやか園施設整備

総費用 262,067千円（補助金196,067千円 借入金66,000千円）

②嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦

- ・千葉県共同募金会遊具設置工事

総費用 3,456千円（補助金1,900千円 自己負担1,556千円）

3) 職員採用（本部事務局）

① 平成29年度に向けた新規職員採用の概要

ア マイナビ2017を稼働させ、早期新卒の確保を実施した。

新卒者の動向は、全体的に早まっており、多くの説明会を回り、内定は複数とってもなかなか内定承諾は出さないという、まさに売り手市場の傾向が強まった採用活動となった。半面、内定承諾書を提出後の辞退は、卒業できなかった特殊な例を除いて皆無であった。

イ 对学校関係に関しては、採用活動強化校を選択し、日ごろからの関係の強化、求職情報のきめ細かな発信を行ってきた結果、大学のキャリアセンター、指導教授、在籍先輩情報など複数のネットワークから直接採用につながったケースが増加した。

ウ ハローワークとは、引き続き良好な関係が維持できており、ハローワーク側で嬉泉を応募者に推薦するケースが大変多くなった。特に、従来の渋谷ハローワークハートフルコーナー（福祉関係専門）に加え、木更津ハローワーク、池袋ハローワークにも、嬉泉の業務内容と理念に共感してくれている職員がおり、適任者が応募されると選抜推薦してくれる体制が出来上がった。

エ 渋谷ハローワークハートフルコーナーとは昨年に引き続き共同企画イベントを実施した。本年は、保育士を対象に、「面接見学会」を実施し、参加者には他では得られない体験であることと、丁寧な案内に、応募者からは高い評価を得た。

オ 応募者の求職活動の多様化傾向に対応するため、求職チャンネルを増加した。東社協が運営する「福祉の仕事」サイト、千葉県社協が運営する「福祉の仕事」サイト、世田谷区が運営する「世田谷保育ワーク」サイトからは予想を超えた既卒者の応募があり、多くの採用実績につながった。

また、言語聴覚士、作業療法士などの専門職については、有料を含めそれぞれのいくつかの専門サイトを利用した。

カ 本年度は、4月より翌年3月まで、年間を通じて採用活動を実施したが、必要ポストをすべて充足することはできなかった。売り手市場化していることは先に言及したが、その中で応募者は、法人の理念、業務内容、雇用条件等はひととおり確認はするものの、最終的な決め手は、そこにどういう人が働いているかという点に収束する。その意味で、職場見学、業務体験を求める応募者が多く、各事業所の協力を得て極力これに対応した。また、採用説明会においてリクルーターによる、職員としての思いの披露であるとか、直接の交流が応募者に与える良い影響が極めて大きいことが応募

者の感想、内定者の証言等で確認されており、今後も引き続きリクルーターの活躍に期待するところが大きい。

キ インターンシップを導入する企業が増加しており、当法人としても、単なる体験型インターンシップではなく、学校と協調して雇用型インターンシップを試行的に導入した。専門学校夜間部に在籍し、昼間は、スクーリング期間を除きフルタイム非常勤として勤務する傍ら卒業までに保育士の資格を取得するというものである。学校、学生、事業者の3者にとってメリットのある施策であり今後も学校側に働きかけて広く展開する予定である。

ク 28年度既卒採用時事項

就職困難者助成金（60才以上のハローワーク紹介の常勤採用）対象職員を2名採用した。助成金合計は、120万円。

② 常勤職員採用結果

		心理職	支援員	保育士	厨房	事務等	医務	計
男女別	男	2	5	1	0	0	0	8
	女	2	11	13	4	0	0	30
新既別	既卒	1	10	7	4	0	0	22
	新卒	3	6	7	0	0	0	16
学歴別	院卒	3	1	0	0	0	0	4
	大卒	1	15	8	0	0	0	24
	他	0	0	6	4	0	0	10
	計	4	16	14	4	0	0	38

③ 職員数の推移

平成26年4月1日から平成29年4月1日の間の職員数の推移は下表の通りである。

	常勤職員	非常勤職員	派遣社員	計
平成26年4月1日	335	141	2	478
平成27年4月1日	360	156	2	518
平成28年4月1日	367	160	1	528
平成29年4月1日	343	136	2	481

※嘱託契約（医師等）を除く

4) 法人主催の職員研修（研究啓発局）

①療育合宿研修

ア. 夏季療育合宿

日時：平成28年8月13日（土）～15日（月）

場所：嬉泉福祉交流センター〔袖ヶ浦〕

目的・内容：

- ・自閉症児・者と生活をともにしながら、『受容的交流』を体験的に学ぶ。特

に日常業務において、一定程度経験を積んだ職員の支援能力の向上、グループ等の運営能力の向上に主眼を置く。

- ・日常とは違ったスーパービジョン体制の中で、個々の職員が自分を見直し、研修課題に取り組む。

参加利用者：10名

参加職員：21名（研修対象職員14名、研修係7名）

イ. 冬季療育合宿

日時：平成28年12月17日(土)～19日(月)

場所：嬉泉福祉交流センター[袖ヶ浦]

目的・内容：

※夏季療育合宿と同

参加利用者：10名

参加職員：21名（研修対象職員13名、研修係8名、園長1名）

昨年度と同様、「新人職員を除く中堅職員を研修対象として実施した。研修のすすめ方として、合宿中は利用者への理解と支援に集中し、打ち合わせもそのための具体的な情報共有と検討を主とした、個々の職員の課題や目標に関わるスーパービジョンは、研修終了後に「振り返りの会」として集約して行うようにした。また、なるべく職員の良さが生かされ、各所属事業所での研修や育成につなげられるように、所属事業所の直属のスーパーバイザーとの連携を密にするよう努めた。結果として、職員は前向きな気持ちで合宿に参加し、「振り返り」を行う中で、それぞれ何かしら自分の目標や課題についての気づきや学びを得ていることが確認できた。研修報告でも、療育合宿での研修や経験に対する肯定的な報告や感想が多くあり、研修の進め方の工夫の成果が上がってきていると言える。例年、研修対象となる職員の選出にあたっては、事業所の事情との兼ね合いで、意図通りにすすみなく状況があるが、キャリアパスの策定による研修体系化の動きと合わせ、次年度以降の課題である。

②新人研修・全体職員研修

ア. 新人研修

日時：平成29年3月18日(土)

場所：嬉泉福祉交流センター[袖ヶ浦]

目的・内容：

*新人職員へのオリエンテーション・ガイダンスを行う。

*新人職員の緊張を和らげ、職員同士の交流を図る。

参加職員：76名（平成28年度中途採用職員；31名、平成29年度新規採用職員；27名、研修係、スタッフ；18名）

当所は、例年通り「嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦」での宿泊研修を予定していたが、大人数の宿泊や食事等の対応が難しい状況となり、初めて日帰りでの実施となった。午前は「嬉泉のてびき」に基づいた嬉泉の職員としての基本的な事項（法人の理念、スーパービジョンと研修、人権擁護、倫理綱領）や事務手続きのガイダンスに加え、「先輩職員からの経験談」の発表を行った。午後のはのびろ学園やひかりの学園の居住棟や作業棟、石井哲夫記念館等、敷地内の「施設見学」や「職員交流セッション」を行った。事後のアンケートで「先輩職員の話に共感した」「仕事へのイメージが持てた」「期待や意欲がわいてきた」等の感想が多く寄せられ、研修形態や時間が縮小傾向にあるものの、その中で、必要な研修内容が明確になってきている、と感じる。

イ. 全体研修

日時：平成 29 年 3 月 19 日(日)

場所：サンルートプラザ東京

テーマ：『我々の仕事の社会的意味は何か』

～嬉泉の考える社会貢献～

参加職員：274 名(全職員対象、平成 29 年度新規採用職員含む)

昨今の社会情勢を踏まえ、本年度は上記テーマのもとに研修を実施した。中心のプログラムとして、午前中は同テーマでの「各拠点場長によるシンポジウム」、午後は「各拠点からの実践発表」を行った。シンポジウムも実践発表も、各場長、発表者のそれぞれの立場や視点からの発表となり、「嬉泉ならではの社会貢献や実践」の検討・集約には至らなかったが、自分たちの仕事の価値や意義を再認識したり、拠点間の他事業所の実践を知る良い機会となった。

③職層別研修

※本年度は実施しなかった。

④事業所間職員交流研修

- ・各拠点における夏祭りや餅つき等の季節行事の際、それぞれ各事業所に職員の研修参加を呼びかけ、随時交流研修を実施した。
- ・セタックからわかばの家に通年で継続的に、職員 2 名の派遣研修を行った。
- ・わかばの家から世田谷、板橋、清瀬の事業所へ、夏季と冬季の自主通所期間を利用し派遣研修を行った。

⑤事務職員研修

日時：平成 29 年 2 月 3 日(金)

場所：日立システムズ会議室

内容：『福祉の森・操作教育研修』

新会計基準に対応した決算作業に向け、財務システムの研修を実施

参加職員：11 名

5) 福利厚生（本部事務局）

① 新人職員歓迎会

- ・目的・内容：辞令交付式と同日に開催。新任職員を歓迎し、先任職員との交流を行った。
- ・期日：平成28年4月1日（金）
- ・場所：子どもの生活研究所

② 年頭所感会

- ・目的・内容：年頭に当たり、理事長・常務理事より所感と今後の方針が述べられた。その後職員同士の懇親を目的とした着席式のパーティーになり、飲食を交えて歓談した。
- ・期日：平成29年1月14日（土）
- ・場所：浦安ブライトンホテル
- ・参加人数； 260名

③ 次世代育成プロジェクト

ア 活動概要

ア) 育児休業者の取得実績は14名であった。その他、休暇取得をその年度出産したお子さんの為の育児を目的とした実績として男性の育児休業2名取得を認めた。

イ) 育児休業者復帰者セミナーの実施

- ・目的・内容：「職場復帰」へのスムーズな導入を目的に、職員全体研修の報告、育児休業取得後の復帰に関する情報伝達、就業規則・制度の変更点の説明などを行った
- ・期日：平成29年3月21日（火）
- ・場所：子どもの生活研究所
- ・参加人数：8名（欠席者には資料を郵送）

ウ) 採用活動での告知を強化

くるみん認定マークの求人票への掲載（募集要項、ハローワーク求人票）
採用説明会で、応募者への説明を実施した。

エ) 第2期行動計画目標の全項目を実施したことを確認した。

イ 育児休業取得実績

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度予定
子研	1	1	5	11	5	5	5
セタック	1	1	3	3	3	0	—
赤塚	0	1	2	1	1	1	1
大田	—	1	0	3	0	6	1

清瀬	0	0	0	0	1	0	2
袖ヶ浦	1	2	3	2	2	2	2
計	3	6	13	21	12	14	11
				くるみん 認定取得			7月出産予定まで

ウ 女性活躍推進法への取り組み

ア) 平成28年4月1日施行の女性活躍推進法に対応するため、平成28年3月31日付にて「一般事業主行動計画」を策定し、東京労働局長に届け出た。

行動計画の目標を、計画期間中（平成28年4月1日～平成31年3月31日）、各年度、女性の離職率を10%以内に収めること、および1年以内で離職する女性の数をゼロとする、現況に比して極めて高く設定した。

イ) 平成28年4月1日、「社会福祉法人 嬉泉 行動計画」を、嬉泉HPに公表した。

ウ) 平成28年10月1日、「社会福祉法人嬉泉女性活躍行動計画および女性の活躍に関する法人情報」を、厚生労働省「女性の活躍・両立支援総合サイト」に公表した。

6) 広報・啓発事業（研究啓発局）

①第31回自閉症実践療育セミナー

内容：テーマ「自閉症の人への支援を考える～自己実現を支える支援とは～」

午前講演：「自閉症の僕の七転び八起き」 講師：東田直樹氏

「我が子の可能性を信じる子育て」 講師：東田美紀氏

午後座談会：「自己実現を支える支援について考える」

座長 山崎晃資氏、シンポジスト 五十嵐康郎氏、梅田真理氏、日詰正文氏

期日：平成28年6月25日（土）10：00～16：00

会場：全社協・灘尾ホール

参加人数：152名（職員含む）

②「嬉泉の新聞」の発行

「嬉泉の新聞」では、福祉関係有識者や法人理事等の関係者による巻頭言、法人内トピックスの紹介等、法人に関わる各種情報の公開等を行なっている。年2回の定期発行とし、作成した新聞は、法人関係者、協力者、関係諸機関・団体等に無料配布している。また、嬉泉をより理解いただくために、嬉泉バザーや嬉泉祭りバザーで広報コーナーに置いたり、職員採用説明会等で配布をしている。

●発行状況：第74号（10月発行）／ 第75号（3月発行）

●発行部数：第74号 3,000部 ／ 第75号 2,000部

*第75号の発行の際、配布先を精査し、今まで行っていた全職員への配布を、部署ごとの回覧掲示及びホームページでの閲覧等へ切り替え、発

行部数を減らした。

●内容：

<第74号>

- ・巻頭言「改正発達障害者支援法の意義」
発達障害の支援を考える議員連盟事務局長 高木美智代氏
- ・「第38回嬉泉祭りバザー報告」
- ・新規事業所「宇奈根なごやか園分園と送迎保育ステーション」
- ・「第31回自閉症実践療育セミナー開催報告」
- ・「平成27年度社会福祉法人嬉泉 事業報告／決算報告」

<第75号>

- ・巻頭言「社会福祉法人嬉泉 創立50周年を迎えて」
社会福祉法人嬉泉 理事長 須藤祐司
- ・「平成28年度の嬉泉の平成29年度の基本方針」
社会福祉法人嬉泉 常務理事 石井啓
- ・「第五十二回嬉泉バザー報告」
- ・新規事業所
「送迎保育ステーションと鎌田のびやか園」
- ・嬉泉の美味しい食品アラカルト

③ インターネット・ホームページ管理

「嬉泉新聞」とともに、本法人にかかわる各種情報の公開を目的として、よりアップ・トゥ・デートな情報を発信した。また、ホームページリニューアルに向けて準備を進めた。

ホームページの主な掲載内容

- ・インフォメーション（嬉泉バザー開催のお知らせ他）
- ・嬉泉について
- ・嬉泉事業所案内
- ・法人公開情報（運営財務に関する公開情報他）
- ・採用情報
- ・アトリエアウトスについて

④ 法人パンフレット・事業所パンフレット

法人の総括的パンフレットは平成27年度に改訂増刷したものを使用し、平成27年度に作成した各事業拠点ごとの事業所パンフレットとともに、本部及び各事業所において活用している。

⑤ アトリエAUTOSの活動内容

■作品展開催

- ア 第17回アートフレンズ展 作品出展
 - ・期間；5月17日～5月22日
 - ・場所；千葉市美術館市民ギャラリー
 - ・主催；千葉幕張ロータリークラブ
- イ アトリエ・アウトス展～自閉症その内的世界の表出XI～ 主催
 - ・期間；6月15日～21日
 - ・場所；玉川高島屋S・C南館6階ホワイトモール
 - ・企画；東神開発株式会社 ・後援；世田谷区
- ウ アトリエ・アウトス展 主催
 - ・期間；11月8日～13日
 - ・場所；世田谷美術館区民ギャラリーB
 - ・後援；世田谷区
- エ 植草学園短期大学 学園祭 作品出展
 - ・期間；11月12日～13日
 - ・場所；植草学園短期大学

■その他

- ア 日本チャリティ協会主催主催のアジアパラアートに出展
- イ アートビリティ（社会福祉法人東京コロニー）契約継続
市川浩志さん
- ウ 2017年カレンダー（ポストカード仕様）制作販売および配布
（1000セット作製）

7) バザーの開催（本部事務局）

① 第52回嬉泉バザー

- ア 期日；平成28年10月30日（日）
- イ 場所；子どもの生活研究所
- ウ 会計報告（単位；円）

係	純益
献品	336,069
手芸	69,169
産直・委託	104,869
食堂	249,129
広報	33,989
後援会	169,554
総務	387,064
合計	1,349,843

② 第39回嬉泉祭りバザー

- ア 期日；平成29年2月26日（日）

イ 場所；嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦

ウ 会計報告（単位；円）

係	純益
献品	917,808
手芸	102,130
子どもコーナー	52,161
食堂	293,190
広報	160,452
総務	913,581
合計	2,439,322

8) 運営改善・人権擁護等（本部事務局）

① 苦情解決

ア 苦情解決実績

平成28年度中の苦情申出件数 0件

イ 苦情解決第三者委員

事業所	氏名	性別	推薦区分	職業等
世田谷	高橋利一	男	関係団体	至誠学舎立川顧問
	小沼肇	男	関係団体	小田原女子短期大学学長
	安藤真洋	男	関係団体	社会福祉法人武蔵野理事長
	金子恵美	女	関係団体	日本社会事業大学教授
セタック	森下由規子	女	関係団体	明星大学准教授
	長谷川幹	男	関係団体	三軒茶屋リハビリテーションクリニック
袖ヶ浦	請井征力	男	関係団体	社会福祉法人佑啓会市原市福祉会館館長
	宮本秀樹	男	関係団体	常磐大学コミュニティ振興学部准教授
	小島直子	女	地域代表	袖ヶ浦市民生委員・児童委員
赤塚	関谷公二	男	地域代表	泉福寺住職（元篠ヶ谷戸町会長）
大田	瀧下史代	女	地域代表	入新井地区民生委員
	岡崎照幸	男	地域代表	馬込地区民生委員
	守安富美子	女	地域代表	田園調布地区民生委員
清瀬	池永和子	女	地域代表	清瀬市民生児童委員協議会会長

② 第三者評価事業の受審

下記施設・事業において、東京都認証機関による第三者評価事業を受審した。

ア 児童発達支援センター子どもの生活研究所めばえ学園

イ 障害福祉サービス事業おおらか学園

ウ 保育所すこやか園

エ 保育所宇奈根なごやか園

オ 福祉型障害児入所施設袖ヶ浦のびろ学園

カ 障害者支援施設袖ヶ浦ひかりの学園

③法令遵守自主点検の実施

内部統制質問書による自主点検を拠点単位で実施し、法令遵守責任者に提出した。

(2) 社会化基金の事業

1) 経過

「地域生活援助ホーム（通称・大泉の家）」について、東京都より基本財産処分認可を受け、売却を行った。

売却金額 39,000,000円

[役員・評議員名簿]

社会福祉法人嬉泉

理事長	須藤祐司	医療法人社団嬉泉会 理事長
常務理事	石井 啓	(福)嬉泉 袖ヶ浦ひかりの学園 園長
理事	高橋利一	(福)至誠学舎立川 理事長
	吉岡則重	(福)東京福社会 専務理事
	潮谷義子	(学)日本社会事業大学 理事長
	山根美江子	(福)嬉泉 保育・療育統括アドバイザー
	山崎順子	(福)嬉泉 東京都発達障害者支援センター センター長
監事	中島健一	(学)愛知学院大学 教授
	大森行雄	大森行雄税理士事務所 税理士
評議員	山崎晃資	(社)日本自閉症協会 会長
	小沼康夫	(学)サンシャイン学園 顧問
	丸山寿晴	(医)嬉泉会 副理事長
	齋藤 穂	利用者家族
	安田正貴	元(財)世田谷区保健センター 理事長
	金子尚弘	元(学)白梅学園 白梅学園大学子ども学部 教授
	真仁田昭	一般社団法人日本図書文化協会 理事長
	前川千寿子	(福)慶長会 理事長
	相羽美子	世田谷区成城地区民生委員 副会長

*理事は全員評議員を兼ねる。

*任期： 自 平成 28 年 4 月 1 日 ～ 至 平成 30 年 3 月 31 日

但し、改正社会福祉法が施行された場合は、理事並びに監事については施行日以後最初に召集される定時評議員会の終結の時まで、評議員については平成 29 年 3 月 31 日までとする。

年間行事等実施状況

平成28年度

項目 月	主要行事		職員研修・職員会議等		広報・啓発事業		職員採用		理事会関係・その他			
	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容		
4月	1	辞令交付式	1	新人職員歓迎会	11	場長会					1 25	理事会 理事会
5月					9	場長会			21	採用説明会	13・17 23	監事監査 理事会・評議員会
6月					13 16	場長会 園長会	15-21 25	アトリエ・アウトス展 自閉症実践療育セミナー			20	理事会
7月	16 21 31	赤塚夏祭り 袖ヶ浦夏祭り 袖ヶ浦収穫祭	23 24	子研夏祭り わかば夏祭り	11	場長会			9	採用説明会	20	理事会
8月					13-15 23	夏季合宿研修 場長会					20	理事会
9月					12	場長会			9	採用説明会	29	理事会・評議員会
10月	30	嬉泉バザー			17 20	場長会 園長会						
11月					14	場長会	8-13	アトリエ・アウトス展	26	採用説明会		
12月					12・29 17-19	場長会 冬季合宿研修					15	理事会・評議員会
1月	14	年頭所感会	5 20	袖ヶ浦もちつき 子研もちつき	11・19 19	場長会 園長会					20	理事会
2月	26	嬉泉祭りバザー			13	場長会					14	評議員選任・解任委員会
3月	22	鎌田のびやか園開所式			13 18・19	場長会 新人研修・全体職員研修					23	理事会・評議員会

